

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

令和6年10月1日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
京都医健専門学校	平成17年3月3日	藤田 裕之	〒 604-8203 (住所) 京都市中京区衣棚町51-2 (電話) 075-257-6507																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人 滋慶コミュニケーションアート	平成17年3月3日	竹本 雅信	〒 604-8203 (住所) 京都市中京区衣棚町51-2 (電話) 075-257-6507																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
衛生	衛生専門課程	トータルビューティー科	平成25(2013)年度	-	令和 5(2023)年度																														
学科の目的	専門性の高い美容技術の習得と、お客様に最高の満足を感じて頂けるホスピタリティーを理解した人材の育成を目指す。また、内面からの健康的な美しさをアドバイスできるよう、専門分野だけでなく幅広い美容知識を学び、業界にふさわしい身だしなみを備えた人材を養成し、業界に輩出します。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	認定上級エステティシャン、AEA上級認定エステティシャン、美肌検定、JMAメイクアップ技能検定、JMAシェウウエムメイクアップ技能検定、日本化粧品検定、ネイリスト技能検定、JNAジェルネイル技能検定、パーソナルカラー検定、アロマセラピー検定、サービス接客検定																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,710 単位時間 単位	510 単位時間 単位	3,750 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
80人	131人	0人	0%	6%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>44</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>37</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>37</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>13</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>35</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>84</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和 5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 百貨店・化粧品メーカー・エステサロン・ネイルサロン・その他の美容関係</p>							■卒業生数(C)	44	人	■就職希望者数(D)	37	人	■就職者数(E)	37	人	■地元就職者数(F)	13	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	35	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	84	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業生数(C)	44	人																																	
■就職希望者数(D)	37	人																																	
■就職者数(E)	37	人																																	
■地元就職者数(F)	13	人																																	
■就職率(E/D)	100	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	35	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	84	%																																	
■進学者数	0	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																		
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.kyoto-iken.ac.jp/">https://www.kyoto-iken.ac.jp/</a>																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>4,260 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>240 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>4,260 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>240 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	4,260 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	240 単位時間	うち必修授業時数	4,260 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	240 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	4,260 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	240 単位時間																																		
うち必修授業時数	4,260 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	240 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																		
うち必修授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>3人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	3人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																		
計	3人																																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性の高い美容技術・美容知識を学び、業界にふさわしい身だしなみや業界から求められるホスピタリティマインドを備えた人材を養成し、輩出する事を目標とします。業界から必要とされる人材を業界と共に育成する(産学協同教育システム)という考えのもと、業界で活躍されている企業・団体・講師陣と連携した授業を実施します。また、教育課程編成委員会や講師会等において、業界・団体の方の意見や動向、要望などを取り入れ、授業内容の見直しや授業方法の改善・工夫等を行っていくことを基本方針とします。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育課程編成委員会は、理事会のもとに設置され、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっています。また、学校運営においては、教員組織規則において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に活かし、実績的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従い、委員会を運営します。委員会で提案された意見は、学科会議で具体的な実践方法を検討し、教育課程編成に取り入れます。作成された教育課程は教務部長・事務局長・学校長の承認を経て実施されます。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
藤田 裕之	京都医健専門学校	R6.4.1～R7.3.31	事務局
竹本 雅信	京都医健専門学校	R6.4.1～R7.3.31	事務局
生出 貴也	京都医健専門学校	R6.4.1～R7.3.31	事務局
鳥嶋 勝博	京都医健専門学校	R6.4.1～R7.3.31	事務局
宮江 真矢	京都医健専門学校	R6.4.1～R7.3.31	事務局
川飛 みちよ	京都医健専門学校	R6.4.1～R7.3.31	事務局
酒井 励子	京都医健専門学校	R6.4.1～R7.3.31	事務局
奥村 優之	ベレガ株式会社	R6.4.1～R7.3.31	③
荒木 ゆかり	一般社団法人日本保健福祉ネイリスト協会	R6.4.1～R7.3.31	①

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年6月29日 19:30～20:30

第2回 令和6年3月28日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会からの提言を受け、幅広い年齢層や富裕層、外国人にも対応できる接客力を強化するためにビジネスマナー授業においてロールプレイング実習を強化するようにした。接客検定準1級の中に秘書検定の要素を取り入れ、正しい敬語や所作を習得し、質の高い接客ができ即戦力となり得る人材育成を目指す。

(別途、以下の資料を提出)

- \* 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- \* 教育課程編成委員会等の規則
- \* 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- \* 学校又は法人の組織図
- \* 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出すという「産学連携教育」を開講以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行う為、業界と連携し、専門知識・技術、人間力を持ち合わせた人材育成を行っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実技・実習・演習科目においては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
フェイシャルエステⅠ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 『海洋療法』と呼ばれるタラソテラピーについて習得する／毛周期・光脱毛器・フォトフェイシャルについて習得する	滝川株式会社
フェイシャルエステⅡ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 インド発祥の伝統医学であるアーユルヴェーダにおいて、頭を意味するシローと流れを意味するダーラを組み合わせた、オイル療法を習得します。	一般社団法人日本シロダーラ協会
トータルエステⅡ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 現役エステティシャンンによるフェイシャル・ボディの技術披露・体感。現場の生の声を聞くとともに、サロンが求める人物層を参考に就職活動につなげる	一般社団法人エステティックグランプリ
テクニカルメイクⅡ	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当 外資系コスメブランド「M・A・C」メイクアップアーティストからトレンドメイクの技法を習得する	ELCジャパン合同会社
特別講義Ⅱ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 福祉ネイリストについて学ぶ、高齢者や身体の不自由な方にネイルや爪ケアのテクニックを習得する	一般社団法人日本保健福祉ネイリスト協会

(別途、以下の資料を提出) * 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等	
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 学校の定める教職員研修規定に基づき、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。実務能力の向上、中途退学者防止と国家試験全員合格に向けた「学生一人ひとり」に対する対応案の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心に捉え、ファカルティ・デベロップメント活動を推進する専任教員に対し、以下の二つの要素が年間を通した授業内容に反映されるよう研修を行います。 ① キャリア教育の視点、② 一人ひとりを見ていく視点 さらに、専任教員と兼任教員で組織する講師会議においてこの方針を共有し、授業内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を実施しています。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: AJESTHE講習会	連携企業等: 日本エステティック協会
期間: 令和5年7月11日	対象: AJESTHE認定講師
内容 お悩み別フェイシャルテクニク「たるみ編」	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 教職員カウンセリング研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 令和5年8月1日～(オンデマンド+オンライン)	対象: 全教職員
内容 滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけて、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指す。JESC認定教員カウンセラー資格取得を目指す。	
(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: AJESTHE講習会	連携企業等: 日本エステティック協会
期間: 令和6年10月22日	対象: AJESTHE認定講師
内容 BWJ「時代を超えて通用するプロのテクニク」	
研修名: メイクケアセラピー	連携企業等: メイクセラピストジャパン
期間: 令和6年12月10日	対象: 美容系学科教員
内容 介護×美容メイクケアセラピー	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 教職員カウンセリング研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 令和6年10月2日～(オンデマンド+オンライン)	対象: 全教職員
内容 滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけて、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指す。JESC認定教員カウンセラー資格取得を目指す。	
(別途、以下の資料を提出) * 研修等に係る諸規程 * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績) * 研修等の計画(推薦年度における計画)	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者代表、近隣関係者、高校関係者ともに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通し、学校運営の改善に活かすことを方針とします。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	教育成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

中途退学者の減少及び国家試験の合格率の向上をさらに目指すようにという評価結果に対して、「ひとり人を大切に」という視点に立って、「SSC・学修相談室」の強化、キャリアサポートアンケート及び学校生活アンケートの有効活用等を推進します。また、国家試験を見据え、1年生から段階的に学習に取り組めるよう、定期試験改革を実施しています。複数学科の連携を期待されていることから、理学療法科・作業療法科・言語聴覚科・社会福祉科による「多職種連携ゼミ」を強化し、スポーツ科学科・柔道整復科・鍼灸科・理学療法科による「KISA(京都医健スポーツアカデミー)」をより充実させます。また、産学連携・地域貢献・社会貢献への期待を受け、様々な取り組みを推進しています。その結果を業界関係者等に発表するイベント(若きクリエイター展)を実施します。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
西村 吉右衛門	千吉商店・ちおん舎	R6.4.1～R7.3.31	近隣代表
新家 忠弘	理学療法科2年 保護者	R6.4.1～R7.3.31	保護者代表
山本 浩介	京都精華学園中学高等学校	R6.4.1～R7.3.31	高校代表
川原崎 浩介	スポーツ科学科 卒業生	R6.4.1～R7.3.31	卒業生代表
長尾 淳彦	公益社団法人 京都府柔道整復師会	R6.4.1～R7.3.31	企業等委員
平野 健一	公益社団法人 京都府鍼灸師会	R6.4.1～R7.3.31	企業等委員
麻田 博之	一般社団法人 京都府理学療法士会	R6.4.1～R7.3.31	企業等委員
小國 由紀	一般社団法人 京都府言語聴覚士会	R6.4.1～R7.3.31	企業等委員
比護 信子	公益財団法人 京都府スポーツ協会	R6.4.1～R7.3.31	企業等委員
津田 勇氣	株式会社ノーザンライツ・コーポレーション	R6.4.1～R7.3.31	企業等委員
奥村 優之	ベレガ株式会社	R6.4.1～R7.3.31	企業等委員
添田 浩生	京滋視能訓練士会	R6.4.1～R7.3.31	企業等委員
石黒 里香	一般社団法人 京都府作業療法士会	R6.4.1～R7.3.31	企業等委員
長澤 哲也	一般社団法人 京都社会福祉士会	R6.4.1～R7.3.31	企業等委員
泉 洋一	佛教大学 福祉教育開発センター	R6.4.1～R7.3.31	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他( ) ( )

URL: [https://www.kyoto-iken.ac.jp/school/public\\_info.html](https://www.kyoto-iken.ac.jp/school/public_info.html)

公表時期: 令和6年10月1日

(別途、以下の資料を提出)

- \* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- \* 自己評価結果公開資料
- \* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

事業計画の実行方針において、提起された目標を具体化するため、企業などから意見聴取を行い、業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。具体的な事例として、講師会等にて授業科目、内容について検討を重ね、意見を反映させてから、様々な企業との連携を図っています。また、卒業生が就職している企業については、就職出陣式や校内企業説明会に誘致するなど、特に積極的に連携し、卒業生が在校生に対して就職活動や業界の動向をレクチャーさせる機会等を設けている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、建学の理念、学校安全関連、保健対策
(2)各学科等の教育	受入方針、定員、在校生数、卒業生数、カリキュラム(教科課程表)、学年歴、シラバス、卒業・進級判定基準、卒業と同時に取得する称号、資格合格実績、主な就職先
(3)教職員	教職員数、学校組織図、教員の実績
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育のコンセプト、キャリア教育マップ、就職の指導
(5)様々な教育活動・教育環境	設備紹介、海外実学研修、課外活動
(6)学生の生活支援	中途退学防止への取り組み／進路変更委員会・SSC、健康管理
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧、奨学金・教育ローン案内等
(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [https://www.kyoto-iken.ac.jp/school/public\\_info.html](https://www.kyoto-iken.ac.jp/school/public_info.html)

公表時期: 令和6年10月1日

(別途、以下の資料を提出)

\* 情報提供している資料

(備考)

・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7、8についても同じ。)

授業科目等の概要

(衛生専門課程トータルビューティー科) 2024年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			情報社会学	コンピューターの利用方法に関する基礎知識及び操作を習得します。	1前	30	2		○		○			○		
○			外国語講座	外国語を通じて、グローバルな感性を養い、国際化に対応できるコミュニケーション能力を身に付けます。	2後	30	2	○			○				○	
○			ビジネスマナーⅠ	人と接する仕事をする上で必要なコミュニケーションスキルや社会人として必要なマナー等について幅広く身に付けます。サービス接客検定準1級の合格を目指します。	1前	30	2	○			○				○	
○			ビジネスマナーⅡ		1後	30	2	○			○					○
○			就職対策講座Ⅰ	社会人・業界人として必要な一般常識から、就職に向けての書類作成方法や面接の受け方を幅広く学び、身に付けます。また業界研修対策として、業界人としての心構え等について習得します。	1前	30	2	○			○				○	
○			就職対策講座Ⅱ		1後	30	2	○			○					○
○			就職対策講座Ⅲ		2前	30	2	○			○					○
○			保健体育	正しい姿勢や効果的な運動を学び、習得します。トータル美容に必要な運動方法を習得します。	2後	30	2		○		○					○
○			トータル美容Ⅰ	様々な観点から美容を捉える視点を身につけ、トータル的な美容を習得します。	2前	30	2		○		○					○
○			トータル美容Ⅱ		2後	30	2		○		○					○
○			フェイシャル基礎演習	フェイシャルの基礎知識を理解し、基本手技を習得します。認定フェイシャルエステティシャン合格を目指します。	1前	60	4		○		○					○

○		メイクアップ基礎理論	メイクアップの効果、顔の基本バランスと印象分析、メイクアイテム等の基礎知識を習得します。	1前	30	2	○			○								
○		メイクアップ基礎演習	身だしなみのメイク方法から、メイクアップの基礎スタンスや基礎技術を習得します。JMA3級取得を目指します。	1前	60	4	○			○								
○		ネイル基礎演習	ネイルの基礎知識と基本技術を習得します。JNA3級合格を目指します。	1前	60	4	○			○								
○		パーソナルカラー	パーソナルカラーの知識を身に付けます。パーソナルカラーリスト検定3級の合格を目指します。	1後	30	2	○			○								
○		アロマセラピー	精油の基本的な知識とアロマセラピートリートメントの手技について習得します。	1後	30	2	○			○								
○		卒業制作Ⅰ	今まで学んできた集大成として、自身でテーマを決め、ショー作品制作、コンテスト対策ができるようになります。	2後	30	2	○			○								
○		卒業制作Ⅱ	今まで学んできた集大成として、自身でテーマを決め、ショー作品制作、コンテスト対策ができるようになります。	2後	60	4	○			○								
○		インターンシップ	美容業界に関する幅広い行事や催し、プロの現場に出向き業界の動向やプロとしての心構えについて習得します。	1・2年	相当数による					○			○	○				
○		サロンワーク	インターンシップに必要なサロンワークを学内サロンやサロン見学等で身に付けます。	1・2年	相当数による					○			○	○	○			
○		海外実学研修	海外の提携施設で研修を行うことにより、グローバルな感性を身に付けます。海外の最新のテクニックや表現力を習得します。	1・2年	相当数による					○			○	○				
○		エステティック基礎理論	エステティックの歴史、皮膚、化粧品、生理学などの基礎知識を習得します。	1前	60	4	○			○								
○		エステティック理論Ⅰ	エステティシャンに必要な基本的な理論を習得します。	1後	60	4	○			○								
○		エステティック理論Ⅱ	エステティック理論Ⅰで学んだ知識を生かし、エステティック施術との関連知識を習得します。また、資格試験（センター試験、日本エステティック協会認定上級エステティシャン、AEA上級認定エステティシャン）の合格を目指します。	2前	30	2	○			○								
○		エステティック理論Ⅲ		2前	30	2	○			○								

○		フェイシャルエステⅠ	エステティック機器学を学び、フェイシャル機器の使用技術を習得します。	1後	60	4		○	○			○	○
○		フェイシャルエステⅡ	エステティックカウンセリングを学び、フェイシャルエステⅠで学んだ理論とフェイシャル技術の応用を習得します。	2前	90	6		○	○			○	○
○		フェイシャルエステⅢ	資格取得に向け、時間内にカウンセリングシートを作成し、プロフェッショナルな施術ができるようになります。	2後	90	6		○	○			○	
○		ボディエステⅠ	ボディマッサージの知識・技術を習得します。	1後	90	6		○	○			○	
○		ボディエステⅡ	ボディ技術の応用、エステ機器学を学び機器の使用法を習得します。ワックス脱毛の知識と技術を習得します。	2前	90	6		○	○			○	
○		ボディエステⅢ	資格取得に向け、時間内にカウンセリングシートを作成し、トータルに施術を行うことができる応用力を習得します。	2後	90	6		○	○			○	
○		トータルエステⅠ	認定協会規定に基づき、受験資格取得を目指し、知識・技術を習得します。	1後	30	2		○	○			○	
○		トータルエステⅡ		2前	30	2		○	○			○	○
○		トータルエステⅢ		2後	30	2		○	○			○	
○		トータルエステⅣ		2後	30	2		○	○			○	
○		ネイル基礎理論	ネイルの基礎理論を学び、爪のケアからカラーリング、フラットアート、フットケアなどの基本を習得します。	1前	30	2	○		○			○	
○		ホスピタリティ	ホスピタリティの理論と実践の両面から理解し、基本的なマナーとビジネスマインドを習得します。	1後	30	2		○	○			○	
○		健康心理学	正しい栄養、食事、生活習慣と心理学の基礎を学び、健康的で美しい身体づくりを習得します。	1後	30	2	○		○			○	
○		パーソナルコーディネート	人の生まれ持った肌や髪や瞳の色と個性や雰囲気調和する色を決められる技術を習得します。メイクアップや好感度に活かせる知識を身に付けます。	2前	30	2	○		○			○	

○		特別講義Ⅰ	美容の知識・技術の向上や資格試験対策等を含め、美容業界に必要な内容を総合的に身に付けます。	1後	30	2		○		○			○	○	
○		特別講義Ⅱ		2後	30	2		○		○				○	○
○		特別講義Ⅲ		2後	30	2		○		○				○	
○		特別講義Ⅳ		2後	30	2		○		○				○	
○		テクニカルメイクⅠ	メイクアップ基礎テクニックの強化とイメージメイクに必要な修整メイクテクニックを習得します。JMA2級取得を目指します。	1後	60	4		○		○				○	
○		テクニカルメイクⅡ		1後	60	4		○		○				○	
○		テクニカルメイクⅢ	JMA1級取得を目指します。メイクアップ応用テクニックと舞台メイク基礎実習を通し、メイク作品に必要な表現方法を習得します。	2前	30	2		○		○				○	
○		イメージクリエイションⅠ	メイクアップに必要な造形学、色彩学、創作知識、作品の表現力を習得します。	1後	60	4		○		○				○	
○		イメージクリエイションⅡ	メイクアップに必要な造形学、色彩学、創作知識、作品の表現力を習得します。	2前	90	6		○		○				○	
○		イメージクリエイションⅢ	メイクアップに必要な造形学、色彩学、創作知識、作品の表現力を習得します。	2前	60	4		○		○				○	
○		販売演習	美容部員として必要な業界専門知識を習得します。接客販売ロールプレー実習で実践力を習得します。	1後	30	2		○		○				○	
○		カウンセリングⅠ	メイク接客、販売接客に必要な知識と効果的なカウンセリング方法を習得します。JMA1級に必要なカウンセリングスキルを習得します。	1後	30	2		○		○				○	
○		カウンセリングⅡ	販売接客に必要なスキンケアカウンセリングとアドバイス、テクニックを習得します。	2前	60	4		○		○				○	
○		美容業界進路対策	美容業界で働く上で必要な洗練されたファッションセンスやカラー診断を習得します	2前	30	2		○		○				○	

○		アドバイザー対策	接客に活かせる幅広い知識を学びながらメイクアップアドバイザー試験習得を目指します。	2前	60	4		○	○	○								
○		化粧品検定対策	美容・化粧品業界で必要な、販売・営業・カウンセリング・商品企画など仕事に直結した内容を学び、資格取得を目指します。	2後	30	2		○	○	○								
○		コンテスト対策	学内外で行われるコンテストや大会のエントリー経験を活かし、卒業制作ができるようになります。	2後	60	4		○	○	○								
○		化粧品心理学	メイクアップと心理の関係を習得します。	2後	60	4		○	○	○								
○		メイクプレゼンテーション	メイクインストラクターとして必要なアドバイス方法やマナー、プレゼンテーションを身に付けます。	2後	30	2		○	○	○								
○		ネイル検定対策Ⅰ	JNA2級取得にむけて、チップ&オーバーレイ、スカルプチュアの実技を制限時間内で行います。	1後	90	6		○	○	○								
○		ネイル検定対策Ⅱ	ミックスメディアアートを制限時間内にできるようにします。JNA1級の合格レベルを目指します。	2前	120	8		○	○	○								
○		ネイル検定対策Ⅲ		2後	90	6		○	○	○								
○		ネイル演習Ⅰ	イクステンション、エンボスアート、3Dアートなどを学び、それらを合わせた技法を用いて、お客様のニーズに合った提案をできるようにします。又、ネイル検定の資格取得を目指します。	1後	60	4		○	○	○								
○		ネイル演習Ⅱ		2前	90	6		○	○	○								
○		ネイル演習Ⅲ		2後	60	4		○	○	○								
○		ジェルネイルⅠ	ジェルネイルの基本的な知識・技術と多様なデザインを習得し、ジェルネイルのテクニックを磨き、ジェルネイル初級、中級取得を目指します。また、サロンワークで使用する技術や人気デザイン等を取得します。	1後	90	6		○	○	○								
○		ジェルネイルⅡ	ジェルネイルの応用テクニックを学び、ジェル検定中級・上級取得を目指します。また、コンテストに向けてテクニックを磨きます。また、サロンワークで使用する技術や人気デザイン等を取得します。	2前	90	6		○	○	○								
○		ジェルネイルⅢ	ジェルネイルの応用的な知識・技術を習得します。ジェル検定上級を目指します。また、サロンワークで使用する技術や人気デザイン等を取得します。	2後	60	4		○	○	○								

○		スチール撮影Ⅰ	撮影用ヘアメイクに必要な基礎知識と基礎技術を習得します。	1前	60	4		○	○	○								
○		スチール撮影Ⅱ	撮影用ヘアメイクの知識、技術を応用しスチール作品の撮影・制作ができるようになります。	1後	60	4		○	○	○								
○		ヘアアレンジⅠ	ヘアアレンジに必要な道具と頭髪の基礎知識、道具の持ち方の基本、道具の使いこなしを習得します。	1前	60	4		○	○	○								
○		ヘアアレンジⅡ	相モデルでのヘアアレンジの基礎から応用までを習得します。	1後	60	4		○	○	○								
○		ヘアメイクアップⅠ	メイクアップ基礎テクニックの強化とイメージメイクに必要な修整メイクテクニックを習得します。	1後	60	4		○	○	○								
○		ヘアメイクアップⅡ	撮影に適したヘアメイク技術を習得します。	2前	60	4		○	○	○								
○		ヘアメイクアップⅢ		2後	60	4		○	○	○								
○		ブライダル演習	ブライダルヘアメイクに必要な知識を習得します。	1後	60	4		○	○	○								
○		ブライダル総合	ブライダル作品の制作、ドレス・和装の知識を習得します。	2後	60	4		○	○	○								
○		テクニカルヘアメイクⅠ	メイクアップ応用テクニックを通しメイク作品に必要な表現方法を習得します。	2前	60	4		○	○	○								
○		テクニカルヘアメイクⅡ	サロンスタイルヘアメイクと和装ブライダルヘアメイクの技術を習得します。	2後	60	4		○	○	○								
○		ヘアスタイリングⅠ	長さ、スタイル別のヘアスタイリングの基礎理論、基礎技術を習得します。	1前	60	4		○	○	○								
○		ヘアスタイリングⅡ	ヘアスタイリングの基礎から応用技術を習得します。	2前	30	2		○	○	○								

○		美容総合技術 I	美容業界に関する幅広い知識や業界の動向やプロとしての心構えについて習得します。	2 前	60	4		○	○	○				
○		美容総合技術 II	プロのヘアメイクに必要な技術を多角的に習得します。	2 後	60	4		○	○	○				
○		舞台メイク	舞台メイク基礎実習を通しヘアメイクに必要な舞台メイク技術を習得します。	2 前	60	4		○	○	○				
○		トータル ビューティー I	今まで学んできた集大成として、自身でテーマを決め、ショー作品制作、コンテスト対策ができるようになります	2 前	60	4		○	○	○				
○		トータル ビューティー II	インターンシップに必要なサロンワークを学内サロンやサロン見学等で身に付けます	2 後	60	4		○	○	○				
				81	科目	4260	単位時間							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
履修すべき学科目のうち、履修を認定されない学科目（不合格）が1 卒業要件： 科目以上あれば、原則卒業できない。最終的な卒業に関する判定は各 判定会議で行う。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 講義・演習・実習		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。